

宮崎大学医学部附属病院放射線部の紹介

診療放射線技師長 小味昌憲

【病院施設概要】

当院は、現在、33の診療科を擁し、632の病床数を持つ宮崎県内唯一の特定機能病院となっており、1日平均外来患者数約1,100人、病床稼働率約86%、平均在院日数約15日の大学病院です。

平成27年4月1日に宮崎大学が指定管理者となって運営している宮崎市立田野病院と連携をとり、地域医療支援を進める形態が特徴的かもしれません。また、災害医療対策には積極的な取り組みを行っており、想定されている南海トラフ地震による災害医療活動を念頭に訓練が行われています。

診療においては整形外科が活発で、特にスポーツ整形に力を入れており、プロスポーツのキャンプシーズンには救急対応を行い、また、学生スポーツの検診なども盛んに行っています。



写真. 宮崎大学医学部附属病院外来棟玄関を望む

【放射線部人員構成および装置構成について】

放射線部は中央診療部門の一つとして開設時より設置され、我々診療放射線技師は全員が放射線部に配属されています。

現在、診療放射線技師35名（うち宮崎市立田野病院に2名）であり、診療放射線技師長1名、副診療放射線技師長2名、主任診療放射線技師6名の運営体制のもと、日々の診療に従事しています。

装置構成ですが、放射線部内は一般撮影8室（乳房、骨密度、CBCT、歯科を含む）、

X線TV4室（内視鏡は含まない）、CT2室、MRI3室、血管造影3室（循環器、脳外科汎用、IVR-CT）、核医学（SPECT-CT2台、PET-CT1台、SPECT1台）、放射線治療（リニアック2台、腔内治療1台、温熱治療1台、計画CT1台）であり、その他、病棟ポータブル3台（一般病棟用、ICU用、NICU用）、救命救急センター（CT1台、ポータブル1台、一般撮影1台）、手術部（ハイブリッド1室、ポータブル1台、Oアーム1台、Cアーム4台）、内視鏡センター（X線TV2台）となっています。

また、ここ数年は装置の更新が続いており、各モダリティとも新しい装置が導入されていますので、最新の検査や治療に携わることができます。

【基本方針】

当院の理念は【診療、教育、研究を通して社会に貢献します】ですが、診療放射線技師においては、【病院のあらゆる場面で機能する技師、何でもできる技師】を掲げています。したがって、スタッフは比較的短期間でローテーションし、日々の診療においても積極的な応援体制を築いています。具体的には、6か月を基準にローテーションを行い、状況によっては、6か月未満でのローテーションも行っています。そうすることで、モダリティ間の連携がスムーズになり、日替わりの勤務配置も可能になっています。その結果、当院のスタッフは、診断から治療に至るまで幅広く業務ができる技師がほとんどです。また、副技師長、主任においても複数部署で業務ができるようにしており、全体の業務管理もスムーズになっています。

【診療放射線技師の活動】

医療安全に関する活動を特に重要と考えており、放射線部内で定期的に急変時対応シミュレーションを行っています。実施時には医療安全管理部に監査をいただいております。そうすることで診療放射線技師の活動が病院内で認識されると同時に実際の急変時対応の問題点が受け入れやすくなると考えています。また、医療安全管理部とはオーダの疑義照会事例をヒヤリハット報告することで日頃より密な連携をとっています。

我々の日常業務は視野が狭くなりがちなので、意識的に外に向けることが必要であり、あらゆる診療場面で機能するためにも見える形で活動できなければなりません。その観点から病棟ポータブル撮影に力を入れており、病棟における看護師との協働をはたらきかけ、患者誤認対策と感染対策を徹底し、FPDの機能を活用したより良い画像情報の提供に取り組んでいます。

また、業務研修トレーニングを取り入れていますが、これは特定機能病院に求められる技師に対する継続研修と位置付けており、各部署において業務シナリオを設定し、その状況で確実に業務が行えるかをチェックし、特にローテーションで部署が変わった場合や、マニュアルだけでは伝えられないことの指導に活用しています。

学術活動については、できるだけ個人に依存せず、全体で活動が継続できるように毎

月1回リサーチミーティングを行っています。各領域からテーマを持ちよって全体で議論し、スケジュール管理を行うことで、学会発表に繋げています。

また、県内においては、大学病院の技師が中心となって運営している研究会が多数あり、地域における発表や交流を行う場として機能しています。

大学病院においては、多職種連携が重要となっていますが、各診療科との連携を深めるために、様々なカンファレンスに参加しています。特に、整形外科とは緊密な連携をとっており、月1回の整形外科医局カンファレンスに参加し、技師から FPD の画像処理などの報告を行って、日頃の撮影に活かされています。また、ハイブリッド手術である TAVI などでは、他職種カンファレンスにも参加していますし、救命救急センターにおける毎朝の申し送りミーティングには技師も参加しており、幅広く各診療科とのコミュニケーションが取れる体制を構築しています。